



# 長崎労働基準監督署の 労働災害発生状況について



## 労働災害 + 記録表

### 長崎労働基準監督署

死亡者数 **6** 人 (前年比 **+** **4** 人)

死傷者数 **680** 人 (前年比 **+** **82** 人)

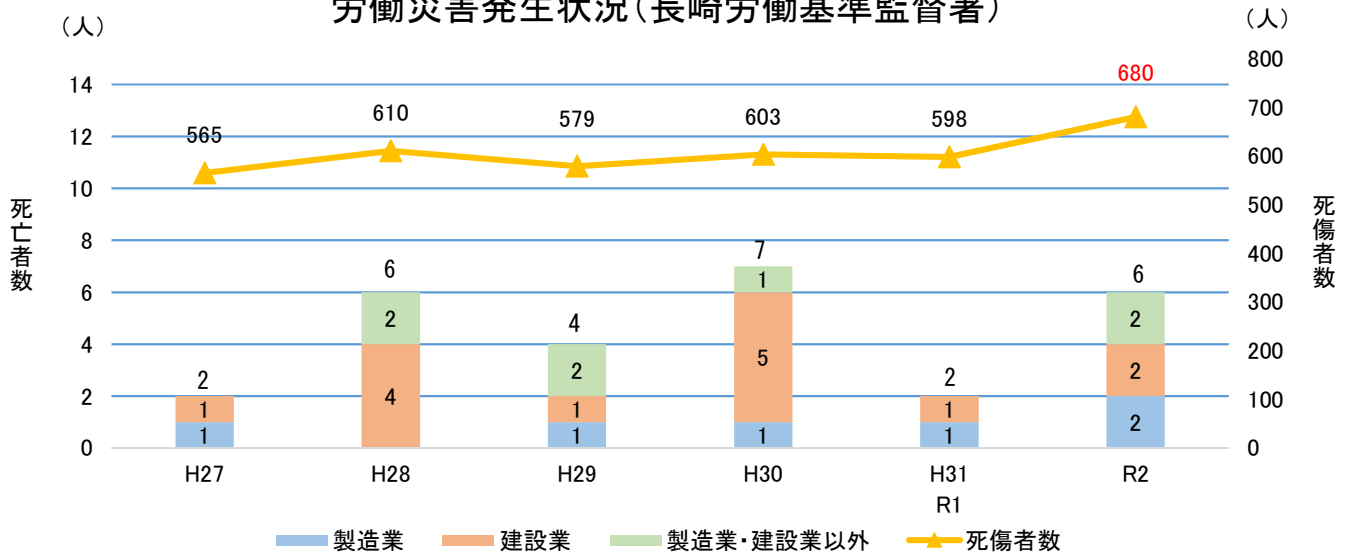
期間 令和 **2** 年 **1** 月 **1** 日 ~ 令和 **2** 年 **12** 月 **31** 日

令和 2 年においては、業務中の災害で残念ながら6人の方がお亡くなりになられ、前年より4人増加しています。

また、休業4日以上の死傷災害は680人に上り、同時期の統計がある2000年以降、最多となりました。

なお、休業4日以上の死傷者数には、業務中の新型コロナウイルス感染症による21人が含まれています。

労働災害発生状況(長崎労働基準監督署)



令和2年の死亡災害の概要(長崎労働基準監督署)

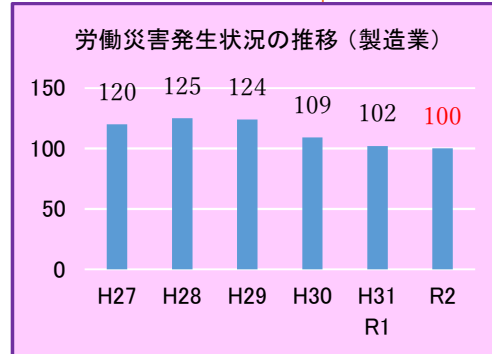
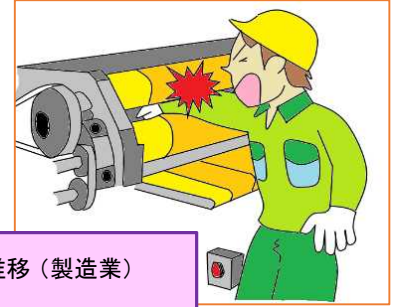
発生月	業種	概要	事故の型
1月	建設業(土木)	被災者は、港に係留中の起重機船の甲板上で、仮置きしていた鋼製の作業台(高さ5.89m)のはしご道を降りていたところ、足を掛けていたはしごの踏みさんが折れ4.75mの位置から墜落した。	墜落・転落
1月	製造業(造船)	建造中の船舶でタンクの水洗い作業に従事していた被災者が、マンホールからタンク内に降りていたところ、高さ約12m下のタンク底に墜落した。	墜落・転落
2月	その他	業務による心理的負荷等による。	その他
6月	水運業	海上において、台船を曳航船にて岸壁へ接岸作業中、台船の端にかけていた係留ロープを取り外しに行ったところ、係留ロープとともに海へ転落した。	おぼれ
12月	建設業(建築)	工場のスレート屋根の張り替え工事で使用した足場の解体作業を行っていたところ、腐食していた既設点検台の床面を踏み抜いて約8.8m下に墜落した。	墜落・転落
12月	製造業(造船)	被災者は船体ブロック内において、ガス切断機を使用し一人で鋼材を切断していたところ、溶断の火の粉が作業服へ引火し、熱傷を負った。	高温・低温の物との接触

## 製造業の労働災害発生状況(長崎労働基準監督署)

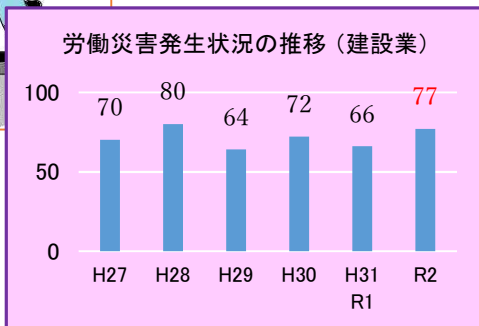
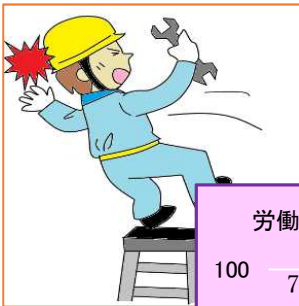
令和2年の製造業の休業4日以上之死傷災害は100人となり、前年より2人減少しましたが、残念ながら2人の方がお亡くなりになられています。

業種別では、造船業が36人と最も多く、食料品製造業26人、金属製品製造業15人等となっています。

また、事故の型及び起因物の組み合わせを見ると、動力機械による巻き込まれ(11人)、通路等での転倒(7人)、作業中の熱中症(5人)が目立って発生しています。



## 建設業の労働災害発生状況(長崎労働基準監督署)



令和2年の建設業の休業4日以上之死傷災害は77人となり、前年より11人増加しており、さらに、残念ながら2人の方がお亡くなりになっています。

業種別では、建築が49人と最も多く、土木15人、その他13人となっています。

また、墜落・転落は、休業4日以上之死傷災害の45%(35人)を占めており、はしごからが11人、足場からが9人等となっています。

## 第三次産業の労働災害発生状況(長崎労働基準監督署)

令和2年の第三次産業の休業4日以上之死傷災害は413人となり、平成29年以降、連続で増加しています。

業種別では、保健衛生業が156人と最も多く、商業106人、清掃・と畜業41人、接客娯楽業37人となっています。

また、事故の型及び起因物の組み合わせを見ると、通路等での転倒(70人)、腰痛(29人)が目立って発生しています。

